

お知らせ
セミナー企画プロジェクト

箏の調べをお届けします

新春 MELON 環境コンサート 2003
慎 & 奈緒子のデュオ

～現代邦楽（箏・十七弦）～

毎年ご好評をいただいております「新春 MELON 環境コンサート」を来年2月に開催いたします。このコンサートは、宮城県にゆかりのあるアーティストの方に、MELON の活動にご賛同いただいて開催しており、今年で6回目になります。収益金は MELON の環境保全活動に役立てられます。

今回は、市川慎氏、菊地奈緒子氏のデュオによる箏の演奏をお楽しみいただきます。

日本の伝統楽器である箏で表現される新しい世界にあなたもきっと惹き込まれることでしょう。

日時：2003年2月21日（金）18:30 開演

場所：ピープベースメントシアター

（仙台市青葉区一番町4-1-3）

チケット：前売2,800円 当日3,000円

（*ワイン・ワンドリンク付き 全席自由）

お問い合わせは MELON 事務局まで

市川慎氏プロフィール：秋田県生田流箏曲『清絃会』家元足達清賀の孫として生まれる。第7回長谷検校記念全国邦楽コンクール最優秀賞他受賞多数。清絃会副会長。

菊地奈緒子氏プロフィール：仙台市生まれ、幼少より祖母、母の手ほどきを受ける。

第7回長谷検校記念全国邦楽コンクール奨励賞他受賞多数。秋田県生田流箏曲清絃会会長補佐。



かぜの学校がはじまるよう！

ているのかもしれませんが。動物たちが登場してくる児童文学では、その風が舞台装置のような役割を演じることがよくあります。

「かぜの学校のはじまり」（今村葦子 文、高久明実 絵 ほるぷ出版）の中で作者のあたたかい愛情にあふれた目で見つめられた動物たち『ひとりひとり』も、その風の中で生きているのです。そこから、こころがわき出るような、ひととひととのぶつかり合いを瞬時でも忘れさせてくれるような物語を私たちに教えてくれます。

物語のすすみ具合を動物たちと風の関わり合いで考えて読みましょう。「起承転結」のように導入部/展開部/クライマックス/終結（次への続きも含めて）が分かってきます。



「このにおいだよ、わかる？これとおんなじにおい」エリックは、人通りの無くなったマルクト広場から小さな路地への抜け口で立ち止まった。出身地キールと同じ臭いのする風なのだという。「しおの？」、何しろバルト海に近い町のことだ。潮風に決まっている。でなければ、湿った空気・・・「ちがう！イシガキ、このにおいだ。」とエリックはこだわった。

10年以上も前の出来事だというのにはっきりと覚えていて。あとき彼は何を感じていたのだろうか。同じ風の中にいたというのに。

風はその力を利用できるわけではありません。秋の日には、ビルの谷間をとがった風となってすり抜け、野原に出ればざわめきたてるおしゃべりな風たちに生まれ変わる。私たちの感覚すべてに働きかけてくれているのです。ただ、私たちが風をまるごと感じる「こころのポシット」をどこかに置いてき